

内科 小児科 漢方
産科 婦人科
浮田医院
だより



第 73 号

医療法人 せゝらぎ会

発行所：浮田医院

〒520-1214 滋賀県高島市安曇川町末広3丁目28

TEL 0740-32-3751

FAX 0740-32-3795

ホームページ: <http://www.ukita.gr.jp>e-mail: kanpou@ukita.gr.jp

発行日：2007年12月5日(水)

発行者：浮田 徹也



漢方薬のよさ(73) 漢方の流派II

早くも年の瀬のあわただしさを感じる毎日です。皆様方のご要望の漢方部門の入り口と待合が完成しました。産婦人科部門の入り口から入り辛い方はご利用ください。また、待ち時間を少なくするため、診療の時間予約を実施しています。

物事(仕事)には始まり(原点)

があります。人は心に描いた希望(念願)が叶うように計画し努力します。私にも今までに「医者になりたい」「産婦人科医になろう」「漢方医を目指そう」「開業しよう」などいくつかの願いがありました。これからもちろさんあると思います。その中のひとつをお話します。

「漢方医学と西洋医学は二つでひとつ」と言う思いは、大学を卒業後五年でやってきました。大学で学んだ診断と治療では目



マキノの夕日 (滋賀県高島市)



あさだ そうはく
浅田宗伯翁

の前の患者さんたちの期待に込めることができない場合が時々あり、患者さんに申し訳ないと感じました。そんな時、恩師から「漢方医学を始めてみる」と云われました。最初の三年間は独学で、日本の漢方(古方、後世方、一貫堂)、中国の漢方(中

医学)の本をできるだけ沢山読みました。四年目になってやっと立派な師匠に出会うことができました。私の漢方医学の原点は「漢方医学と西洋医学は二つでひとつ」と言うことです。このことを忘れないように毎日診療をしています。

漢方の流派のお話です。せせらぎ四九号、五八号、六一号も参考にして下さい。室町時代中期には、それまでの中国模倣医学から日本独特の医学へ脱皮し始めます。金元時代に李東垣と朱丹溪が唱えた温補(体の冷えや体力不足を補う)と言う治療方法を明代に田代三喜が中国に留学して、月湖(日本人)から学んで帰りました。三喜に親炙した曲直瀬道三は天下に李朱医学を宣伝しました。理論(陰陽五行、五運六気、臟腑経絡など)を排する古方派と違い、理論を重んじ李朱医学を伝える医師達を後世派と呼びます。理論を基に病因(病気の原因)、病機(病機のメカニズム)、病理(生理機能)、弁証(診断)、治療します。江戸時代、古方派や後世





派は京都を中心に関西で起り、考証学派は江戸を中心に関東で起りました。考証学派の医師達は幕府の後押しで膨大な量の古今の文献を研究し、江戸幕府の官立江戸医学館で診療、研究、教育を行っていました。しかし、徳川幕府滅亡と共に次第に忘れ去られました。では実例に移ります。

三十七歳女性、**肩こり**、一五八cm、六六kg、汗かき、便秘（七日に一回）、顔面と上下肢に浮腫、食欲良好一三〇—一八〇、蛋白尿（—）、赤ら顔、色白、お腹は膨満、柔らかい、両側臍傍に抵抗と圧痛、脈は沈、滑、数。そこで、二朮湯を処方。二週間後、肩こりはかなり改善。四週間後、前回と同じ。そこで、二朮湯、桂枝茯苓丸、サフランを処方。六週間後、尿がずいぶん増え、肩こりはほとんどなくなる。更に一ヶ月服用して廃薬。

六四女性、**糖尿病**、口渴、下肢の痺れ、下肢浮腫。顔は両頬赤く、胸脇苦満、臍上悸、心下痞、下腹部軟弱、臍傍圧痛、脈は沈緊実。舌は淡紅色、乾膩黃苔。HbA1c 9.5、クレアチニン0.7、肝機能は正常、そこで、柴胡加竜骨牡蠣湯、八味丸、



[院長]

桂枝茯苓丸、紅参、サフラン、イミグラン錠、バイソンを処方。三ヶ月後、HbA1c 7.9、口渴、下肢痺れ、下肢浮腫消失。一年後、HbA1c 7.1、二年後、HbA1c 6.5、三年後、HbA1c 6.1、糖尿病性網膜症（—）、現在継続中。

二十九歳女性、**乳腺炎**、分娩後一〇日、頭痛、肩こり、発熱（三八℃）。顔は紅潮、両側乳房は腫脹、発赤、疼痛。腹部は軟弱。脈は浮緊、実、数。舌は、紅色、乾黃苔、舌下靜脈怒張。そこで、葛根湯、桔梗石膏を処方。乳房マッサージを実施。翌日、平熱。漢方薬は三日服用。

次回は、**神経痛**です。

瞬く間に過ぎた一年でした。皆様方にとってこの一年はどんな年でしたでしょうか。来年も職員一同皆様方のためにがんばりたいと思います。どうぞよろしく願います。



肩こり

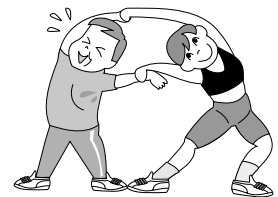
眼、耳、鼻、咽の病気、内臓の病気、姿勢、精神的な病気、老化、血圧、などが原因になりやすく、冷えや血液循環障害、胃腸の不調、むくみなどの体質、湿気や寒さなどの環境も影響します。

このような全ての条件を参考に診察（腹診、脈診、舌診）をして漢方薬を決定します。また、鍼やスーパーライザー（近赤外線）などを実施することもあります。



糖尿病

膵β細胞が破壊されたⅠ型糖尿病とインスリン分泌不全のⅡ型糖尿病があります。日本人に多いⅡ型糖尿病は「インスリン分泌不全」が原因で、運動によりインスリンの感受性を高め、過食や遅い夕食を止めることが大切です。漢方薬は網膜症、腎症、神経障害などの微小循環障害（瘀血）を改善するのに適しています。HbA1cが高値になると西洋薬を併用する機会が多くなります。



乳腺炎

お乳が赤くはれ、痛み、発熱します。時には頭痛、悪寒、食欲低下、便秘、尿量減少を伴うこともあります。乳房マッサージ、乳房の安静（冷却）、漢方薬、抗生物質、自然植物によるシップを利用しています。予防は、乳房の自己管理で、乳房と乳首の手入を怠らず、乳汁のうっ滞や肩こりを感じる際には、当院の漢方薬（エキス剤、煎じ薬）を服用することをお勧めします。



当院の漢方治療



剤型

- ・エキス漢方薬：錠剤タイプの漢方薬と顆粒タイプの漢方薬があります。
- ・漢方煎じ薬：良質の生薬を組み合わせた漢方薬。40～60分煮て作ります。
当院の顆粒タイプの漢方薬は、胃になじみやすい反面、湿気に弱いので、乾燥剤の入った容器に入れ、しっかり蓋をして下さい。それでも固まる場合、冷蔵庫(冷凍庫)で保管して下さい。
漢方薬が固まりやすい場合、当院の漢方薬専用容器(無料)をご利用下さい。

適応症

- 便秘、頭痛、肩こり、腰痛、食欲不振、疲れ、冷え、むくみ、痛み、痺れ、動悸、めまい、ほてり、発熱、かゆみ、排尿障害・・・などすべての症状。
- ・漢方薬のよく効く疾患
アトピー性皮膚炎、更年期障害、便秘、腰痛、肩こり、子宮内膜症、子宮筋腫、生理痛、冷え性、不妊症、低血圧、めまい、頭痛、下痢、動悸、過敏性大腸、慢性疲労、風邪、肥満、夏ばて、慢性肝炎、肝硬変、慢性胃炎、慢性脾炎、慢性胆嚢炎、胆石、胃十二指腸潰瘍、痛風、慢性膀胱炎、血尿、前立腺肥大、蕁麻疹、接触性皮膚炎、にきび、慢性中耳炎、慢性扁桃腺炎、慢性副鼻腔炎、口内炎、口腔乾燥、虚弱児、切迫流産、妊娠中毒症、産後回復不全、乳腺炎、乳汁分泌不全、乳腺症、上下肢浮腫、膝関節症、神経痛、帯状疱疹後神経痛、下肢静脈瘤、クーラー病・・・
- ・漢方薬と西洋薬を併用することの多い疾患
高血圧、高脂血症、高コレステロール血症、アレルギー性鼻炎、不眠症、自律神経失調症、うつ病、骨粗鬆症、糖尿病、慢性関節リウマチ、痔、肝硬変、喘息、腎炎、甲状腺疾患、夜尿症、脳梗塞後遺症、脳出血後遺症、抗癌剤使用後倦怠感、抗癌剤使用時副作用・・・

エキス漢方薬と漢方煎じ薬

- ・軽症 ・ 程度の病気：漢方製剤（顆粒あるいは錠剤）を組み合わせで治療。
- ・重症の病気、エキス剤が無効：漢方煎じ薬で治療。

女性の方、男性の方、お子様、高齢の方、ご相談下さい。

問診、望診(舌診)、聞診、切診(腹診と脈診)の東洋医学的診察法(四診)や検査(超音波、血液、便、尿、痰、腔分泌物、心電図、骨量測定・・・)などを利用して、漢方薬を決めます。

予約-漢方外来

土曜日の午後、予約-漢方外来があります。予約制、2回/月。
午後2時～2時20分、2時20分～40分、2時40分～3時、
3時～3時20分、3時20分～3時40分、3時40分～4時。
日程は掲示板やホームページでご確認ください。(電話予約可)

骨量測定(4～6ヶ月ごと)

1分で測定(極少量のX線吸収を利用)。結果は、直ぐにお渡しします。骨破壊度の検査(尿)も実施しています。

アトピー軟膏 健康食品

漢方薬(生薬)のみで作られた軟膏です。

- ・紫雲膏 ・太乙膏 ・アガリクス ・メシマコブ
- ・靈芝 ・AHCC ・サメ軟膏

外来休診日のお知らせ

外来診察は、12月31日(日)午後～1月3日(水)の間、お休みします。お産や急患はこのかぎりではありません。

健康保険証の確認

保険証は毎月確認することになっています。保険が使えなくなると困りますから、保険証の変更は、早急に受付に連絡して下さい。

在宅療養の支援とは

患者さんあるいはその家族の人と相談のうえ、その家族を訪問し、計画的に診療と治療を行います。往診と違い、定期的に(月に2～12回)訪問診療を行い、患者さんの健康を管理します。在宅療養の支援についてお気軽にご相談下さい。

スーパーライザー(神経照射)

赤い温かい光(近赤外線)で血行をよくし、腰痛、肩こり、五十肩、膝の痛み、ムチウチ、捻挫、花粉症、アトピー性皮膚炎、ストレス・・・などの治療に利用しています。

皮内針、針管付き鍼

皮内針の長さは1～2mm、針管付き鍼の長さは30mm、いずれの鍼も刺す時の痛みはありません。肩こり、腰痛、膝関節痛、足の痛、筋肉痛、頭痛・・・の治療に適しています。

処置診(処置、検査、点滴、鍼、スーパーライザー)

診察券を入れ受診者名簿に、氏名を書き、処置の欄にチェックして下さい。

外 来 診 療 時 間

	月	火	水	木	金	土	日
午前9:00～正午	○ (予約可)	○ (予約可)	○ (予約可)	○ (予約可)	○ (予約可)	○ (予約可)	—
正午～午後0時30分	—	—	産後健診(予約可)	—	産後健診(予約可)	—	—
午後2:00～午後3:30	母乳相談(予約) (有料)	母乳相談(予約) (有料)	母乳相談(予約) (有料)	母乳相談(予約) (有料)	母乳相談(予約) (有料)	予約-漢方外来 (月2回)	—
午後2:00～午後4:00	在宅訪問診療	(手術)	在宅訪問診療	(手術)	在宅訪問診療	—	—
午後5:30～午後7:30	○ (予約可)	—	○ (予約可)	—	○ (予約可)	—	—

◇漢方外来(月～土)(予約可) : 内科、小児科、皮膚科、産婦人科、整形外科、耳鼻科、眼科など全科の漢方薬による治療。

◇予約-漢方外来(2回/月 土曜日): 午後2時～2時20分、2時20分～2時40分、2時40分～3時、3時～3時20分、3時20分～3時40分

3時40分～4時 電話予約可(日程はホームページ、掲示板参照)

◇更年期外来(月～土曜日)(予約可): 更年期の方、思春期の方(女性、男性 どなたでもお越し下さい)

◇不妊 外来(月～土曜日)(予約可): 赤ちゃんの欲しい方(ご夫婦でもお越しになれます)

◇妊婦 外来(月～土曜日)(予約可): 妊婦健診、妊娠中の方

◇産後 健診(水、金曜日)(有料): 正午～午後0時30分 電話予約可 赤ちゃん健診(1ヶ月、2ヶ月、3ヶ月) 産後健診

◇母乳 相談(月～金曜日)(有料): 午後2時～2時30分、2時30分～3時、3時～3時30分 乳房マッサージ。電話予約可

前期と中期-母親教室

日時: 平成20年1月5日、2月2日の各土曜日

対象: 妊娠7ヶ月までの方(定員7名位)(無料)

場所: 当院別棟 多目的ルーム 申込方法: 申込ノートでご予約をお願いします。*ご主人様もお気軽にご参加下さい。

立会い分娩ご希望の方は 特にご参加をお勧めします。(申し込みノートにお名前記入をお願いします)

後 期 - 母 親 教 室

日時: 平成19年12月12日(水)、22日(土)、26日(水)、平成20年1月16日(水)

26日(土)、30日(水) 対象: 妊娠8～10ヶ月までの方(定員7名位)(無料)

母親教室のお知らせ

母親教室では、“母と子のてびき”にそって、お話をすすめています。参加時には母子手帳とともに、忘れずにお持ち下さい。(“母と子のてびき”は、分娩予約時に受付でお渡ししています。)

ご主人と一緒に参加される場合は、必ず申し込みノートに予約の記入をお願いいたします。

あつこ やくしつ ほうかん くけつ
勿誤薬室方函口訣

浅田宗伯翁が常用漢方処方の運用方法を記載した書物です。古方と後世方の漢方処方を先人と宗伯の経験に基づいて書かれている。わが国の漢方医学は、実用性を追求し発展し、先人の教えを口訣として残してきました。この書物は傷寒論と金匱要略の処方だけでなく、後世方の処方(わが国の名医の経験方や中国歴代の医書の処方)も傷寒論の治療体系に基づき解説され、多くの口訣を集積しています。すべての処方は宗伯翁が自ら処方したもので翁の患者数の多さとパワーが感じとれます。



分娩予約

妊娠30週までに受付で予約して下さい。
ご予約には、分娩予約カードと予約金10万円が必要です。
予約された方には、母と子のてびきをお渡しします。

外来の予約方法

患者様の診察の待ち時間が短くなるように、診察の時間予約をしています(再診の方のみ)。そのため、予約頂いている患者様を優先させて頂きます。また、通院中の患者様の中でお薬だけ・注射だけ・検査だけの場合は時間予約の必要はありませんので診察時間中にお越し下さい。

◆ご予約頂いておりましても、分娩などで診察を中断する事もございますのでどうかご理解頂きます様にお願い致します。
◆初診の方は予約できません。ご了承ください。

パソコンホームページ (<http://www.ukita.gr.jp>)

トップページ (お知らせの欄、診療日程カレンダー)
産婦人科のページ (入院、食事、各種教室、指導)
漢方治療のページ (外来、漢方治療の範囲)
老人医療のページ (在宅療養の支援)
健康のページ (健診、プライマルチェック、予防接種)
当院の施設案内、当院への交通(車、J R)

正常分娩の入院日数

正常分娩の場合入院日を含めて入院期間は6日間です。
初産婦の方、経産婦の方も同じ入院日数です。
分娩希望の方はすべて受け付けています。

母乳相談 (助産師)

母乳相談(有料)(乳房マッサージ)をしています。(電話予約可)
午後2時～2時30分、2時30分～3時、3時～3時30分。
日程は掲示板やホームページでお確かめください。

赤ちゃん健診

1ヶ月、2ヶ月、3ヶ月健診をしています。
日時: 毎週水、金曜日 正午～午後0時30分 (有料)

入院食 (手作り)

心のこもった手作り料理です。素材、味付け、メニュー・・・など、絶えず工夫し研究しています。

お屠蘇

延寿屠蘇散と言い、中国では早くすたれましたが、日本では宮中行事から民間に広がり、江戸時代に曲直瀬玄朔の工夫で完成しました(無料)。